

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社した職員とも、理念について話し合う場を設けている。また、日々意識して取り組めるよう、フロアやトイレにも提示している。	地域に密着した生活を送ることを取り入れた、事業所独自の理念が作成されています。日々目に付くよう、各ユニット・職員用トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、ミーティングでも確認・検討の機会を設け、理念の実践に向けた取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の広報を回覧させて頂いたり、“ほっとあがの広報”やお便り等の案内も出させて頂いたりしながら、地域の祭りに参加したり、地域の方々より、クリスマス会等に参加して頂いたりしながら、交流を図っている。	2ヶ月に1度は事業所広報を地域に回覧したり、ホームのクリスマス会やありがとう会には地域の方にも参加していただいています。また、地域の子供会から野菜を頂いたり、小学生や中学生のボランティアにも来て頂くなど地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバン・メイト養成研修に参加等を通じて、認知症の人の理解や支援について、地域に発信できるような研修等を実施できるよう、自己啓発している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに会議を開催し、状況報告や話し合いを行い、サービスの向上・改善に努めている。	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生委員・ご家族代表に出席していただき、活動報告やご利用者の状況報告など事業所の状況を伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取り組みがされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所福祉課・高齢者相談室長の方に参加して頂き、市の現状等や意見を頂戴したりしながら、協力関係を築いている。	市の担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。また、毎月入退去状況を報告し、相談・協力ができる関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて学んでおり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は、説明をし、理解を頂いている。	ご家族の要望でやむを得ず4点のベッド柵をご利用されている方もいますが、玄関の施錠も夜間のみとしているほか、職員会議や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、研修を通じて虐待防止について学ぶ機会を持ち、普段の利用者様に対しての接し方についても、問題がないか、定期的に話し合っている。	身体拘束同様に職員会議や新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、自己学習にて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書を用いて十分な説明をし、不安や疑問が残らないよう、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、普段からの会話を大切にしつつ、意見や要望等を言い易い環境作りに努めている。	年に1度、ご家族同士の座談会を行い、ご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。また、ご家族には面会時のほかクリスマス会やありがとう会にも参加してもらい、意向を確認する機会も設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを大切にしながら、ミーティング等で出た意見を反映させている。又、年二回の個別面談も大事にしている。	毎月のユニット会議や年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、各自が人事考課表に基づいて評価を行ってから、後日、面談の時間を設け、話し合いを通じ、環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数に応じて、全職員が内部研修を受講している。また、外部研修が受けやすいように、法人がらの費用の負担もあり、推奨に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修の推奨や、他事業所の実習生受け入れ等を通じて、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様子を観察しながら、コミュニケーションを大切に、不安事等を話せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が面会された時、要望等をお聞きしながら、関係を深めていけるよう、心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の現状を把握し、サービス担当者会議等でニーズを見極め、最善のケアを提供できるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様の特技を生かしながら、できる事はして頂いている。また、昔ながらの料理等、色々学ばせて頂いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ありがとう会等、御家族様にも来て頂いたり、気楽に面会できる環境作りを目指しながら、関係を密にしていけるよう、心掛けている。	毎月の請求書と一緒に担当職員よりお手紙をお送りしたり、2ヶ月に1回広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。ご家族にも事業所のクリスマス会やありがとう会に参加していただいたり、ご利用者と一緒に自宅への外出や外食に出かけるご家族もおり、ご家族にも協力して頂けるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御親戚の方や御近所の方等、気軽に来所し易い雰囲気作りや、手紙や電話等のやりとりの支援に努めている。	センター方式を採用し生活暦をより把握できるようにしており、知人の方に面会に来て頂いたり、ご利用者の要望に応じて出身地域にドライブに出かけるご利用者もおり、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やレクリエーションを通じ、交流の場の設定をもちつつ、交流が難しい利用者様には職員が間に入ったりして、フォローしながら、関わり合えるよう、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様がボランティアに来て下さったりして、利用者様と交流を保たれている方もおり、今後も関係を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様との話し合いや、御本人様との会話の中から聞き取りを行い、その人らしい暮らし方の把握に努めている。	ご利用者やご家族からの意向も面会時等で確認するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使用されてきた物を持参して頂き、御本人様・御家族様からお聞きする他、センター方式も活用しながら把握に努めている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。	調査時点で生活歴の把握ができていない方もいましたので、確認されることを期待します。また、日々のご利用者とのやりとりのなかで新たに確認された情報についても追加更新されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の流れを心身の状態も含め、個人記録に記入し、小さな変化にも敏感になれるよう、観察も十分にを行い、申し送りの徹底を図りながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体ミーティングやサービス担当者会議を通じて意見を出し合い、より良い介護計画作成につなげている。	毎月行われている全体ミーティングにおいて各ご利用者のケア等について話し合いをしており、介護計画が作成されています。半年に1回の期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	介護計画については一人ひとり、その時点にそった個別具体的な介護計画を作成するとともに、サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、介護計画を検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の小さな変化に気づき、申し送り等を通じて、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しにもつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までは対応していなかったサービスでも、職員間で話し合い、必要となった場合は、御家族様に相談・確認をしながら、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お話し相手・行事でのお手伝い・外出時等にボランティアとして協力して頂いており、一緒に楽しめる場の設定を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関に受診時、利用者様の状態を把握して頂く為、医療連携表に状態を記入し、医師に診て頂くように支援している。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面にてご利用者に関する情報伝達が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護師が来所され、個々の利用者様の状態をお伝えし、対応等のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は、御家族様との連絡・お見舞い等を通じて、状態の把握に努めつつ、ご利用者様に異変があった場合は、早期に診て頂くよう、早めの対応を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に、御家族様との話し合いで、ホームとしてできる事をお伝えしつつ、今後についての方針を共有できるよう、心掛けている。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要なれば最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でもその方針は共有されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを設置し、年に二回、避難訓練も行っている。また、今年度、普通救命講習も行った。	職員は阿賀野市消防署で普通救命講習を受講し、AEDの使用方法や人工呼吸について学んでいるほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への周知・徹底もされており、事故発生時にも適切な対応ができるように努めています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、避難訓練を行い、地域の方にも声を掛けつつ、新人職員も対応できるよう、災害についてのマニュアル化を目指している。	ホームにおいて、年2回の日中の火災を想定した避難訓練を実施しておりますが、地域の方には参加していただいております。夜間を想定した訓練は行われておりませんでした。	災害時に適切な避難ができるように、夜間を想定した避難訓練や避難訓練に地域の方にも参加して頂き、協力体制を整備されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様が穏やかかつ、心地よく過ごせるような言葉掛けや対応を心掛けている。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、ご家族にも広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。また、職員の接遇についても振り返る機会を持ち、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「私はこうしたい」という希望があった時、希望がかなえられるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者様が思い思いに過ごせるよう、お聞きしたりしながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用様に合った洋服が選択できるよう、時には一緒に着替えを準備したりして、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料切りや食器洗い・お茶入れ等、利用者様のできる事を一緒に楽しむ事ができるよう、支援している。	ご利用者にも、野菜の皮むき・盛り付けなどの準備、食事の片付けも協力してもらっています。また、ご利用者の要望に応じてハンバーガーを食べに出かけたり、回転寿司に出かけたり、ホームの畑で育てたオクラ、なす、ししとう等の収穫もご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表や食事量にて把握しながら、盛りつけ等の工夫を行い、水分については、こまめに声掛け・声掛けの工夫を通じて、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でされる方が多いが、その他の方は声掛けや、一部介助にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて把握しながら、声掛け・トイレ誘導を行っている。何度もトイレの訴えがあった場合にも、尊重し、トイレ誘導を行いながら、支援している。	全てのご利用者に対して水分・排尿・排便のチェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表にて水分量を把握し、摂取量の少ない方にはこまめに声掛けを行い、摂取して頂いている。また、体操等、体を動かす場の設定も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各利用者様の希望に合わせてながら、入浴剤を使用したりして、ゆっくりと入浴できるよう、支援している。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。	調査時点で入浴を嫌がるご利用者への対応について、ケース記録に記録されていないところもありましたので、職員間で記録方法について検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休めるように、布団やシーツの清潔を保ちつつ、その時々室温に応じ、室温調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に、かかりつけ医や家人に状態報告を行い指示を仰ぎながら、服薬をして頂いたり、服薬前後の確認もしっかり行いながら、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理のないように、洗濯物たたみや台所仕事等、こまめに声掛け・見守りも十分に行いながら、役割を持った生活ができるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節季節の外出行事にお出掛けしたり、天気のいい日には希望や体調に応じて散歩に出掛けたりして、思い思いに出掛けられるよう、支援している。	ご利用者の誕生日には担当職員とドライブに出かけたり、季節に合わせてお花見やあやめ見学、ぶどう狩りや紅葉見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者様の管理・支払能力に応じて、希望に添えるよう支援しているが、ご利用者様の状態や、御家族様の希望等により、職員が管理している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼や、手紙・葉書の返事ができるよう、見守り支援している。電話についても、相手様にも確認しながら、希望に添える事ができるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、各利用者様が作られた季節に合った貼り絵を飾ったり、利用者様が育てている植物や生き物等を窓辺に置いたりして、利用者様の気持ちが和み、落ち着けるよう、努めている。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。また、季節を感じる花やご利用者の習字の作品の掲示などもされており、居心地のよい空間が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごされたり、各利用者様が思い思いに過ごせるよう、環境作りの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様・ご家族様の思いや希望に合わせ、馴染みの家具等を持参して頂き、居心地良く過ごせるよう支援している。	ご利用者の愛用していたラジオや人形などの持込みや写真の掲示など、一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等、提示して分かりやすくしています。また、利用者様が自立した生活を送れるよう、できる事はして頂き、安全に配慮しながら、支援している。		